

2026年11月期 中間決算短信〔日本基準〕(連結)

2026年7月14日

上場会社名 株式会社JNグループ 上場取引所 東
コード番号 6634 URL <https://jngroup.co.jp/>
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 石原 直樹
問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理本部本部長 (氏名) 齊藤 洋介 (TEL) 03-5766-9870
半期報告書提出予定日 2026年7月14日 配当支払開始予定日 —
決算補足説明資料作成の有無 : 無
決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2026年11月期中間期の連結業績(2025年12月1日～2026年5月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年中間期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年11月期中間期	1,500	15.8	△570	—	△1,422	—	△1,417	—
2025年11月期中間期	1,296	166.8	△65	—	△54	—	△1,234	—

(注) 包括利益 2026年11月期中間期 △1,691百万円(—%) 2025年11月期中間期 △943百万円(—%)

	1株当たり 中間純利益	潜在株式調整後 1株当たり 中間純利益
	円 銭	円 銭
2026年11月期中間期	△38.63	—
2025年11月期中間期	△32.49	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2026年11月期中間期	83,537	2,558	3.0
2025年11月期	134,712	3,028	2.2

(参考) 自己資本 2026年11月期中間期 2,475百万円 2025年11月期 2,911百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年11月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2026年11月期	—	0.00			
2026年11月期(予想)			—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2026年11月期の連結業績予想(2025年12月1日～2026年11月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	円 銭
通期	4,383	23.1	103	—	△184	—	111	3.06

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当中間期における連結範囲の重要な変更 : 無
新規 社（社名） 、除外 社（社名）
- (2) 中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2026年11月期中間期	49,588,342株	2025年11月期	38,114,227株
② 期末自己株式数	2026年11月期中間期	3,352,852株	2025年11月期	3,421,896株
③ 期中平均株式数（中間期）	2026年11月期中間期	36,681,993株	2025年11月期中間期	37,988,411株

（注1）連結子会社及び持分法適用関連会社が保有する当社普通株式を、期末自己株式数及び期中平均株式数の計算において控除する自己株式数に含めております。

※ 中間決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料や記載した当期の業績予想につきましては、現時点での入手可能な情報に基づき、当社で判断したものであります。予想に内在する様々な不確定要因や今後の事業運営における内外の状況の変化等により、実際の業績と異なる場合があります。

○添付資料の目次

1. 当中間期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	5
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	5
2. 中間連結財務諸表及び主な注記	6
(1) 中間連結貸借対照表	6
(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書	8
中間連結損益計算書	8
中間連結包括利益計算書	9
(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書	10
(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項	11
(継続企業の前提に関する注記)	11
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	11
(セグメント情報等)	12

1. 当中間期決算に関する定性的情報

文中の将来に関する事項は、当中間連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

(1) 経営成績に関する説明

当中間連結会計期間におけるわが国経済は、企業収益や雇用・所得環境の改善を背景に、緩やかな回復基調で推移いたしました。一方で、継続する物価上昇が個人消費に与える影響、欧米・中国経済の動向、中東地域をめぐる地政学リスクの高まり、金融資本市場の変動等により、依然として先行き不透明な状況が続いております。

このような環境の下、当中間連結会計期間の連結業績は、売上高1,500百万円(前期比15.8%増)となりました。また、営業損失は570百万円(前期は営業損失65百万円)、経常損失は1,422百万円(前期は経常損失54百万円)、税金等調整前中間純損失は1,433百万円(前期は税金等調整前中間純損失1,213百万円)、親会社株主に帰属する中間純損失は1,417百万円(前期は親会社株主に帰属する中間純損失1,234百万円)となりました。

また、M&Aに伴うのれん償却額を加味した参考指標であるEBITDA*は、△463百万円(前期はEBITDA56百万円)となりました。

*1 EBITDA＝営業利益＋減価償却費＋のれん償却額

当中間連結会計期間におけるセグメントごとの業績は、以下のとおりであります。

なお、前連結会計年度において「IoT関連事業」に属していた株式会社ネクスを連結子会社から除外したことに伴い、金額的重要性が乏しくなったため、当中間連結会計期間の期首より、当該セグメントを記載上「その他」に集約しております。

(メタバース・デジタルコンテンツ事業)

株式会社実業之日本デジタル(以下「実日デジタル」)は、いわゆる電子書店(電子書籍配信サイト、Web漫画サイト、漫画アプリ、雑誌読み放題サイト等)及び電子取次を主な取引先としております。当年度はマンガ領域において、アンソロジーコミックの単話版独占先行配信を実施し、新規読者層の獲得及び作品認知の拡大に注力いたしました。その結果、『執着ヤンデレに愛されすぎて 異世界恋愛アンソロジーコミック』が好調に推移したほか、収録作品の単話版『片想いが辛くて失踪したら、ヤンデレ化した夫に捕まりました』が、国内最大級の電子書店であるコミックシーモアのランキングに入るなど、重点施策が具体的な成果として表れております。

主力作品『静かなるドン』については、YouTubeにおいてタイアップ広告案件として採用され、売上の増加につながりました。加えて、既刊では『裏切られた悪徳王女、幼女になって冷血皇帝に拾われる』及び『硝子の塔の殺人文庫版』が引き続き好調に推移し、業績の下支えとなりました。今後も、各プラットフォームの特性に応じた販促施策と作品展開を継続し、販売機会の最大化と収益基盤の強化に取り組んでまいります。

株式会社スケブ(以下「スケブ」)は、クリエイターにイラストや音声データ等を有償でリクエストできるコミッションサービス『Skeb』を提供しております。『Skeb』は、2026年5月時点において総登録者数が396万人を突破し、日本最大級のコミッションプラットフォームと言える水準にまで成長しております。

『Skeb』では、2026年5月20日より「VRChat」アカウントによるログイン連携を開始いたしました。クライアントのオリジナルキャラクターやアバターの制作を依頼できる「うちの子リクエスト」は、月間取引の約20%を占めるなど好調に推移しており、総ユーザー数が約1,000万人規模と推定されるソーシャルVRプラットフォーム「VRChat」とのログイン連携により、さらなるリクエストの増加が期待されます。

また、2026年5月23日に秋葉原で開催した、VRユーザー・VRクリエイター・VR関連企業の交流イベント「超メタフェス2026」は、今回より一部の入場にVRChatアカウント及び事前予約が必要となったにもかかわらず、想定を上回る約2万人の来場者数となりました。

今後もリアル・バーチャルの双方で、登録者数の増加及び利用促進につながるプロモーションの強化と、サービスの向上に取り組んでまいります。

この結果、当中間連結会計期間の売上高は304百万円(前期比5.1%増)、営業利益は25百万円(前期は営業損失10百

万円)となりました。

(IoT関連事業)

農業ICT事業(JN FARM)では、農作物の生産・加工・販売を行う6次産業化事業と、特許農法による化学的土壌マネジメントとICTシステムによるデジタル管理を組み合わせたパッケージ販売を行うフランチャイズ事業の事業化を推進しております。

6次産業化事業では、スーパーフードとして人気の高いGOLDEN BERRY(食用ほおずき)の生産・販売を行っております。加工品としては、セミドライゴールデンベリーに加え、昨年度にリニューアルしたGOLDEN BERRYプレミアムアイスを販売しております。また、今年度の新商品として販売を開始したゴールデンベリーリキュール「アウレア・トロピカ」(720ml・200ml)は、各種通信販売や花巻市内の土産店での取り扱いに加え、当中間連結会計期間には山梨県の酒類卸売業者や岩手県北上市の一部の酒店でも取り扱いが開始されるなど、販売が好調に推移しております。

さらに、GOLDEN BERRYの栽培時に発生する葉の残渣を活用した「ほおずきエキス」を開発し、化粧品の原料として採用されております。

この結果、当中間連結会計期間の売上高は0百万円(前期比99.8%減)、営業損失は1百万円(前期は営業利益39百万円)となりました。

なお、売上高の大幅な減少は、前連結会計年度において子会社であった株式会社ネクスが連結の範囲から除外されたことによる影響が主な要因であります。

(ソリューション事業)

株式会社ケーエスピー(以下「ケーエスピー」)は、外食チェーンや介護施設等における、物流を含めた食材・副資材・消耗品等のトータルサプライヤー業を柱とし、加えて、コスメティックショップ等の物販チェーンにおける各種パッケージやSPツールの企画・制作を行っております。取引社数と商品販売数の二軸を継続的に拡大していくストック型の販売モデルであり、急激な売上・利益の拡大は見込みにくい一方、安定した売上と利益を着実に積み上げていく点を特長としております。

当中間連結会計期間においても、新規販売先及び新規取扱商品は順調に増加しております。今後は、商社機能を活かした仕入先への販売等、双方向の取引の強化に加え、訴求力の高い商品を起点としたクロスセルにより、1社あたりの取引額の増加に向けた施策を積極的に展開してまいります。

また、今期特に注力している食材・食品加工品の開発・販売についても、商品数・販売数がともに着実に増加しております。環境問題や世界的な人口増加に伴う原料不足といった社会課題に対しても、商社機能を活かしたソリューションにフードテックを組み合わせ、新たな事業領域の拡大を進めてまいります。

株式会社J Nソフト(旧株式会社ネクスソフト、以下「J Nソフト」)は、システムエンジニアリングサービス事業(SES事業)としてニーズの高いオープン系を中心とした顧客システム開発の支援やエンジニア派遣と、受託開発事業としてシステム新規開発のほか開発後の運用保守対応や既存顧客からのシステム改修を行っております。

当中間連結会計期間の業績は、当第1四半期連結会計期間で達成した9名の中途採用者のSES事業における案件参画が大幅に遅延し未稼働状態が発生したこと、またパートナービジネスにおいてエンジニア稼働率が下がったことにより、計画比で売上が大幅に未達となりました。なお、それに伴い営業体制を抜本的に見直しいたしました。

受託開発事業においてASTERIA Warp案件の拡大や追加の運用保守案件を獲得したものの、SES事業の売上の大幅未達をリカバリーする水準にまでは至りませんでした。

一方で、受託開発事業において長期間開発の大型案件の受注(2027年6月納品)、また、J Nソフトのエンジニアがアステリア社(ASTERIA Warpメーカー)から2年連続でNo.1アワードを受賞する等、J Nソフトに対するニーズの拡大は進んでおります。これら機会を見極めながら、SES事業においては営業体制見直しによって回転速度を上げ、受託開発事業においては市場のさらなる拡大に努めてまいります。

この結果、当中間連結会計期間の売上高は1,013百万円(前期比30.1%増)、営業利益は4百万円(前期比87.7%減)となりました。

なお、売上高が増加している一方で利益が伸び悩んでいる主な要因は、ケーエスピーにおいては堅調に利益を積

み上げているものの、JNソフトにおいて中途採用者の未稼働期間の発生や外部リソースの確保遅延等により収益が計画を下回ったことに起因しております。

(暗号資産・ブロックチェーン事業)

株式会社Zaif(以下「Zaif」)は、暗号資産交換業者として2016年から10年近いサービス展開をし、老舗プレイヤーとして業界を牽引してまいりました。「暗号資産で資産形成ならZaif」をコンセプトに、個人投資家の資産形成ニーズと、大口顧客の取引ニーズの双方に対応するサービス拡充を進めております。

当中間連結会計期間における取り組みといたしましては、収益性の低い暗号資産である「MV」「ROND」「DEP」の3通貨廃止における返還作業を速やかに完遂させることでのオペレーションコストの圧縮、発行体企業との共同イベント開催による業績向上に向けた取り組み、また、ライフカード株式会社と提携した「Zaifカード」において還元される暗号資産を選択できる等のサービス拡充を実施してまいりました。これらの取り組みが他社との差別化に繋がり、引き続き認知が広がりつつあります。

これら取り組みをスピーディーに進めてきた一方で、当中間連結会計期間の業績は、自己保有暗号資産に関わる評価損の計上が大きく影響したことに加え、暗号資産市況の低迷によりフロー収益・ストック収益ともに想定を下回り、売上高は計画未達となりました。

この結果、当中間連結会計期間の売上高は122百万円(前期は売上高4百万円)、営業損失は494百万円(前期は営業利益2百万円)となりました。

なお、当該損失のうち、自己保有暗号資産の評価損についてはキャッシュアウトを伴わない一時的な要因となります。

(2) 財政状態に関する説明

①資産、負債、純資産の状況

(資産)

資産の残高は、前連結会計年度末と比較して、51,174百万円減少し、83,537百万円となりました。

この主な要因は、自己保有暗号資産が465百万円減少、利用者暗号資産が47,837百万円減少、のれんが96百万円減少し、投資有価証券が1,065百万円減少したことによります。

(負債)

負債の残高は、前連結会計年度末と比較して、50,705百万円減少し、80,978百万円となりました。

この主な要因は、預り暗号資産が47,837百万円減少、借入金^{*2}が1,392百万円減少、1年内償還予定の社債が91百万円増加したことによります。

^{*2} 1年内返済予定の長期借入金、長期借入金残高の合計です。

(純資産)

純資産の残高は、前連結会計年度末と比較して、469百万円減少し、2,558百万円となりました。

この主な要因は、自己株式が9百万円増加したものの、資本剰余金が3,524百万円減少し、その他有価証券評価差額金が229百万円減少したことによります。

②キャッシュ・フローの状況

当中間連結会計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という）の期末残高は、前連結会計年度末と比べて338百万円減少し、1,128百万円となりました。

当中間連結会計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は以下のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動により支出した金額は41百万円（前中間連結会計期間は110百万円の資金獲得）となりました。

これは主に、資金の減少要因として、預り金の減少1,276百万円があり、税金等調整前中間純損失1,433百万円があったことによります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動により支出した金額は245百万円（前中間連結会計期間は783百万円の資金獲得）となりました。

これは主に、連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出179百万円があり、有形固定資産の取得による支出34百万円があったことによります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動により支出した金額は52百万円（前中間連結会計期間は9百万円の資金獲得）となりました。

これは主に、資金の減少要因として、長期借入金の返済による支出48百万円があったことによります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、2026年1月16日の「2025年11月期 決算短信」から変更はありません。

今後の状況をみて、新たに業績予想の修正が必要となった場合は、速やかに開示する予定であります。

2. 中間連結財務諸表及び主な注記

(1) 中間連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2025年11月30日)	当中間連結会計期間 (2026年5月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,470,853	1,132,566
売掛金	352,320	292,443
預託金	6,235,000	4,975,000
商品及び製品	52,769	52,509
仕掛品	1,054	1,631
自己保有暗号資産	670,070	204,114
利用者暗号資産	119,308,572	71,471,252
預け金	553,575	541,551
その他	175,525	125,931
貸倒引当金	△2,338	△2,338
流動資産合計	128,817,403	78,794,663
固定資産		
有形固定資産	101,571	122,996
無形固定資産		
のれん	1,486,589	1,389,772
その他	3,164	2,257
無形固定資産合計	1,489,754	1,392,029
投資その他の資産		
投資有価証券	4,068,330	3,002,425
長期貸付金	85,000	85,000
その他	150,520	140,477
投資その他の資産合計	4,303,851	3,227,903
固定資産合計	5,895,177	4,742,929
資産合計	134,712,580	83,537,593
負債の部		
流動負債		
買掛金	185,252	173,056
短期借入金	365,995	222,997
1年内償還予定の社債	9,000	100,000
1年内返済予定の長期借入金	75,800	70,760
未払法人税等	84,426	39,053
契約負債	121,499	102,517
賞与引当金	12,303	24,220
預り金	7,132,278	5,855,119
預り暗号資産	119,308,572	71,471,252
その他	542,744	299,395
流動負債合計	127,837,871	78,358,373
固定負債		
社債	20,000	20,000
長期借入金	3,728,707	2,484,444
繰延税金負債	71,560	71,705
その他	26,144	44,240
固定負債合計	3,846,412	2,620,389
負債合計	131,684,283	80,978,763

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2025年11月30日)	当中間連結会計期間 (2026年5月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	10,000	10,000
資本剰余金	6,319,101	2,795,014
利益剰余金	△3,088,099	226,594
自己株式	△533,475	△523,536
株主資本合計	2,707,526	2,508,072
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	204,825	△24,850
繰延ヘッジ損益	181	△770
為替換算調整勘定	△1,168	△7,261
その他の包括利益累計額合計	203,839	△32,881
新株予約権	9,720	9,720
非支配株主持分	107,210	73,918
純資産合計	3,028,297	2,558,829
負債純資産合計	134,712,580	83,537,593

(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書

中間連結損益計算書

(単位：千円)

	前中間連結会計期間 (自 2024年12月1日 至 2025年5月31日)	当中間連結会計期間 (自 2025年12月1日 至 2026年5月31日)
売上高	1,296,159	1,500,326
売上原価	803,027	963,225
売上総利益	493,132	537,100
販売費及び一般管理費	558,448	1,107,610
営業損失(△)	△65,316	△570,509
営業外収益		
受取利息	1,511	9,140
受取配当金	214	-
為替差益	-	4,535
その他	15,482	6,584
営業外収益合計	17,209	20,260
営業外費用		
支払利息	5,071	36,087
持分法による投資損失	-	810,826
その他	1,234	24,861
営業外費用合計	6,305	871,775
経常損失(△)	△54,412	△1,422,024
特別利益		
固定資産売却益	1,314	500
特別利益合計	1,314	500
特別損失		
持分変動損失	-	6,194
減損損失	1,160,432	-
投資有価証券譲渡損	-	2,584
助成金返還損	-	2,971
特別損失合計	1,160,432	11,750
税金等調整前中間純損失(△)	△1,213,530	△1,433,275
法人税、住民税及び事業税	20,497	21,526
法人税等調整額	100	235
法人税等合計	20,598	21,761
中間純損失(△)	△1,234,128	△1,455,036
非支配株主に帰属する中間純損失(△)	△14	△37,904
親会社株主に帰属する中間純損失(△)	△1,234,113	△1,417,132

中間連結包括利益計算書

(単位：千円)

	前中間連結会計期間 (自 2024年12月1日 至 2025年5月31日)	当中間連結会計期間 (自 2025年12月1日 至 2026年5月31日)
中間純損失 (△)	△1,234,128	△1,455,036
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	297,622	-
繰延ヘッジ損益	△7,477	△186
為替換算調整勘定	-	△6,096
持分法適用会社に対する持分相当額	-	△230,437
その他の包括利益合計	290,145	△236,721
中間包括利益	△943,983	△1,691,758
(内訳)		
親会社株主に係る中間包括利益	△943,966	△1,653,853
非支配株主に係る中間包括利益	△16	△37,904

(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前中間連結会計期間 (自 2024年12月1日 至 2025年5月31日)	当中間連結会計期間 (自 2025年12月1日 至 2026年5月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前中間純損失 (△)	△1,213,530	△1,433,275
減価償却費	7,013	11,111
減損損失	1,160,432	-
のれん償却額	114,883	96,817
支払利息	5,071	36,087
持分法による投資損益 (△は益)	-	810,826
売上債権の増減額 (△は増加)	235,644	55,712
仕入債務の増減額 (△は減少)	△59,205	△12,206
棚卸資産の増減額 (△は増加)	△154,709	△325
自己保有暗号資産の増減額 (△は増加)	101,003	465,956
利用者暗号資産の増減額 (△は増加)	-	47,837,319
預け金の増減額 (△は増加)	△22,655	12,024
預り金の増減額 (△は減少)	△15,135	△1,276,591
預り暗号資産の増減額 (△は減少)	-	△47,837,319
預託金の増減額 (△は増加)	-	1,260,000
その他	△17,480	23,005
小計	141,333	49,141
利息及び配当金の受取額	2,476	10,440
利息の支払額	△2,942	△19,872
法人税等の支払額又は還付額 (△は支払)	△30,105	△81,062
営業活動によるキャッシュ・フロー	110,761	△41,352
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△41,197	△34,831
無形固定資産の取得による支出	-	△1,474
投資有価証券の取得による支出	△60,000	△30,000
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	-	△179,013
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による収入	878,927	-
その他	5,338	202
投資活動によるキャッシュ・フロー	783,069	△245,116
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	50,000	-
長期借入れによる収入	50,000	-
長期借入金の返済による支出	△83,152	△48,921
社債の償還による支出	△7,000	△9,000
その他	-	5,615
財務活動によるキャッシュ・フロー	9,848	△52,305
現金及び現金同等物に係る換算差額	△241	483
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	903,436	△338,290
現金及び現金同等物の期首残高	1,145,210	1,467,253
現金及び現金同等物の中間期末残高	2,048,646	1,128,962

(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、2026年2月25日開催の第42回定時株主総会において、会社法第448条第1項の規定に基づき、資本準備金を2,013百万円減少させ、同額をその他資本剰余金に振替えております。また、会社法第452条の規程に基づき、その他資本剰余金を4,741百万円減少させ、同額を繰越利益剰余金に振替え、欠損填補を行っております。

また、2026年5月1日付で、株式会社シークエッジ・ジャパン・ホールディングスに対して、第三者割当増資による新株式発行（現物出資「デット・エクイティ・スワップ」を含む）を行っております。この結果、資本金が608百万円増加、資本準備金が608百万円増加しております。

さらに、当社は2026年3月23日開催の取締役会決議に基づき、2026年5月1日付で無償減資を行っております。この結果、資本金が608百万円減少し、その他資本剰余金が608百万円増加しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前中間連結会計期間(自 2024年12月1日 至 2025年5月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント					調整額 (注)	中間連結 財務諸表 計上額
	メタバース・ デジタルコン テンツ事業	暗号資産 ・ブロックチ ェーン 事業	ソリュー ション事業	その他	計		
売上高							
一時点で移転さ れる財	290,204	—	779,080	222,226	1,291,511	—	1,291,511
一定の期間にわ たり移転される 財	—	—	—	360	360	—	360
顧客との契約か ら生じる収益	290,204	—	779,080	222,586	1,291,871	—	1,291,871
その他の収益	—	4,288	—	—	4,288	—	1,296,159
外部顧客への 売上高	290,204	4,288	779,080	222,586	1,291,871	—	1,291,871
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	—	—	3	51,171	51,174	△51,174	—
計	290,204	4,288	779,083	273,757	1,347,333	△51,174	1,296,159
セグメント利益又 は損失(△)	△10,770	2,043	39,611	27,568	58,453	△123,770	△65,316

(注) セグメント利益又は損失は中間連結損益計算書の営業損失と調整を行っており、調整額は主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれん金額の重要な変動)

「その他」のセグメントにおいて、株式会社J Nデジタルグループ(旧:株式会社ネクスデジタルグループ)を取得したことにより、当中間連結会計期間にのれんが1,160百万円発生いたしました。全額を減損損失に計上しております。

なお、発生したのれん額は暫定的に算出された金額であります。

Ⅱ 当中間連結会計期間(自 2025年12月1日 至 2026年5月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント					調整額 (注)	中間連結 財務諸表 計上額
	メタバース・ デジタルコン テンツ事業	暗号資産 ・ブロックチ ェーン 事業	ソリュー ション事業	その他	計		
売上高							
一時点で移転さ れる財	304,867	239,986	784,607	59,305	1,388,766	—	1,388,766
一定の期間にわ たり移転される 財	—	22,153	228,773	384	251,310	—	251,310
顧客との契約か ら生じる収益	304,867	262,139	1,013,380	59,689	1,640,077	—	1,640,077
その他の収益	—	△139,750	—	—	△139,750	—	△139,750
外部顧客への 売上高	304,867	122,388	1,013,380	59,689	1,500,326	—	1,500,326
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	—	—	4,590	115,171	119,761	△119,761	—
計	304,867	122,388	1,017,971	174,860	1,620,088	△119,761	1,500,326
セグメント利益又 は損失(△)	25,903	△494,455	4,859	21,042	△442,649	△127,860	△570,509

(注) セグメント利益又は損失は中間連結損益計算書の営業損失と調整を行っており、調整額は主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

前連結会計年度において「IoT関連事業」に属していた株式会社ネクスを連結子会社から除外したことにより金額的重要性が乏しくなったため、第1四半期連結会計期間の期首より「その他」に集約しております。

なお、前中間連結累計期間のセグメント情報については変更後の区分により作成したものを記載しております。